

## 第1回 全国都市緑化くまもとフェア（仮称）基本構想検討委員会 議事概要

【日 時】 平成30年6月1日（金）14時00分～

【場 所】 熊本市役所 議会棟2階 予算決算委員会室

【出席委員】 全15名中14名出席 ※以下、敬称略

東京農業大学	名誉教授	蓑茂 壽太郎（会長）
熊本大学	名誉教授	内野 明德（副会長）
九州大学大学院	准教授	藤田 直子
熊本商工会議所女性会	理事	濱田 麻里
熊本市中心商店街等連合協議会	会長	安田 二郎
熊本国際観光コンベンション協会	理事	吉村 尚子
水前寺活性化プロジェクトチーム	代表	永野 陽子
熊本市花き振興協議会	会長	村上 昭光
熊本市公園愛護会連合会	会長	大川 洋次郎
熊本市造園建設業協会	会長	吉村 昌洋
立田山自然探検隊	会長	藤井 由幸
熊本市学校環境緑化コンクール	審査委員長	福井 俊介
都市緑化機構	専務理事	宮下 和正
公募委員		桑原 たか子

※欠席委員 熊本大学 准教授 円山 琢也

### 【議事概要】

1. 開会
2. 会長選任
3. 議題

（1）基本構想検討委員会について

（2）全国都市緑化フェアの概要について

（3）全国都市緑化くまもとフェア（仮称）のイメージについて

（事務局）～資料1、資料2-1、資料2-2、資料3に基づき説明～

（委員）近年の開催都市が、どのような背景で開催したのか、どのような狙いがあったのか、どのような問題を抱えて緑化フェアでどう解決したのか、リサーチしているのであれば教えていただきたい。また、検討の視点として、「グリーンインフラ」というキーワードをぜひ入れてほしい。緑化フェアを契機として、アメリカのポートランドと並ぶように、緑を使ったまちづくりとして先駆的な都市になることが一つの目標。

（委員）街なかはきれいで華やかだが、熊本の玄関口は寂しい印象があるので、花で彩り魅力のある場所にしたい。熊本の緑はきれいでとても大きな力を持っているので、緑をもっとアピールしてフェアが成功するようにしたい。

- (委員) 街なかには、白川公園や蓮政寺公園、その他小さい公園もあるので、回遊性があるようにしてもらえると、中心市街地一帯の活性化につながる。
- (委員) 以前、水戸岡鋭治氏にインタビューした際も話されていたが、江津湖のすばらしさをクローズアップし、もっと活かすべきだと思う。また、西原村の菜の花カフェに行ってみて感じたが、緑や花の裏側にある人の優しさや思いが見えるようなこともテーマにするといいと思う。また、熊本には美しい風景がたくさんあるので、水遺産など、今ある資源を掘り起こし活かすことも大事である。
- (委員) 震災で一時は濁水した成就園の地下水が、現在は復活して湧水している。熊本の象徴の一つである水についても、ぜひアピールしていきたい。
- (委員) 淡路島で花の88箇所巡りがあるが、花と緑を育てる上で一番難しいと感じる手入れを、専門学校や農業高校の生徒が実習を兼ねて行っていると聞いたことから、学校や市民の協力がないと維持できないと感じた。また、熊本らしさという点では、緑化フェアを一過性のものとせず、持続的な取り組みをするため、学校と連携するなど、市民協働や循環型なものとし、それが、防災・復興の力につながると考える。
- (委員) 他都市のフェアとして、八王子フェアは市政100周年、山口フェアは維新150年を記念して開催している。また、横浜フェアはガーデンネックレスとして、各区をつなぐ緑化の輪をつくろうというコンセプトのもと、緑化フェアを開催した。これまでの緑化フェアは、高齢者や子連れが多く来場されており、浜松フェアでは来場者の8割が高齢者であったが、特に子ども達を大事にすべきと考える。緑化フェアの中で子どもを対象としたものを行い、子ども達に緑や花の意識を持たせ、将来に向けた取り組みにすべきと考える。
- (委員) お金をかけないことを考えてみたが、そのためには人や組織を動かすことが大事と考える。学校環境緑化コンクールの参加校の中には、種を次年度につなぐ「いのちのリレー」を行っているところもあり、学校に協力を求めることもいいと考える。また、フェア開催後は、フェアで使用した花を市民にプレゼントしていただきたい。京都府警から始まったひまわりの絆プロジェクトがあるが、ひまわりの種を配るのもいい取り組みだと思う。
- (委員) 熊本市では、森の緑都市宣言、地下水保全都市宣言、健康都市宣言、があるが、緑と水は一体のもので、それは健康にもつながるということで進めている。それらを踏まえ、キーワードとして「市民協働」と「未来志向」の二つを提案したい。
- (委員) 緑は維持管理がかかるが、緑を街の財産・資源としてみると、考え方も変わるのではないかと思う。また、緑化フェアが単なる祭りにならないよう、緑の大切さを訴えていくことが大事と思っている。
- (委員) 飛行機で熊本に来る際に見下ろす景色は、森の都をよく感じるが、熊本駅に降り立った際の景色はまだ寂しい。今回の緑化フェアでは、水と森をキャッチフレーズに使うといいかと思う。また、連携中枢都市圏の範囲をどこまでにするのか、今後検討すべきと考える。

(委員) 熊本は花の生産県であり、すばらしい花がたくさんあるので、県外から来られた若い人や子ども達に向けて、熊本の花で迎えるといいと思う。また、開催時期であるが、どちらかというとな花の生産量が増える春の開催がいいと考える。

(副会長) 緑化フェアでは、「森の都」と「水の都」を結びつけることが大切と考えるとともに、生物多様性という観点も、緑化フェアを開催する上で大切と考える。また、江津湖には特殊な動植物もあるし、熊本城は歴史や文化と調和した緑ということで、森の都の拠点でもあるので、これらをきちんと活かすべきと考える。

(会長) 2回目の緑化フェアということで、従来の花を植えるだけではなく、新しい時代の動きを見据えて、熊本ならではの発信ができないと人が来てくれない。今回の緑化フェアを単なるイベントとするのではなく、これを契機として、熊本を知らない人にも来てもらって知ってもらい、人が流れることで経済が潤うようなものにすべきで、将来の遺産として残すということが、委員のみなさんの意見だと思う。具体的には、「グリーンインフラ」や「生物多様性」、「市民協働」、「歴史を遡る」など、これらを踏まえて、今回の提案に対して事務局は新しい案を出していただきたい。

#### (4) PTからの報告

(事務局) ～資料4に基づき説明～

(会長) PTメンバーは職員であるため、強みと弱みは分かっていると思うので、ぜひ強みを伸ばしてもらいたい。また、この機会に、トイレはバリアフリー化した方がいいと思う。

(委員) 先の委員の発言にあった「いのちのリレー」がとても印象に残っている。この言葉には、震災からの復興や水・歴史・子ども達や未来など、色々な要素が入っていると思う。このように、みんなの心が一つになって、それぞれの分野で発揮できるようなコンセプトが決まると、話がスムーズに進むと思った。

#### (5) 今後のスケジュール

(事務局) ～資料5に基づき説明～

(会長) 次回の委員会では具体的なコンセプトが出ると思うが、市民みんながなるほどと思えるようなものでなければならない。できるできないではなく、やるかやらないか。それくらいの気持ちで臨まないと、新しい施策はできない。

## 5. 閉会

以上